

[平成30年度教員研究費特別研究]

# 平成29年度芸術資料の分析・調査およびその教育効果について

Analysis, Investigation, and the Educational Effect of Art  
Materials in the Fiscal Year 2017 (Heisei 29)

三浦 賢治 MIURA Kenji (研究代表者)  
大森 啓 OHMORI Akira  
高橋 明彦 TAKAHASHI Akihiko  
岩崎 純 IWASAKI Jun

## はじめに

本研究は、平成29年度芸術資料として収集した柏健氏寄贈による6点の作品を基に、その制作・表現世界を分析し、その作品群を本学が所蔵する意義を検証するものである。

## 1. 本研究の目的

柏健氏は、金沢美術工芸大学に昭和44年に非常勤講師として来講以来、40年間にわたり本学大学院専任教授、客員教授として指導にあたる中で、本学の絵画（特に西洋画）教育に多大な功績を残された。本研究では柏氏本人への取材のほか、研究の一環として学内展示を行うとともに、柏氏本人を招いたシンポジウムを開催する。さらに一連の研究活動を図録のかたちでまとめ、記録する。

## 2. 寄贈作品の価値について

当該資料は、資料の作者で管理、保管者である柏健氏からの寄贈申し出による、1969年から2015年までの6点の作品からなる。柏健氏は、東京芸術大学専攻科（伊藤廉教室）修了後、フランス政府給費留学生として渡仏、パリ国立美術学校（レーモン・ルグー教室）において学び、1965年に帰国後1966年から現在までの50年間に渡り、個展、国際コンクール、公募展において精力的な制作・発表活動を経て

高い評価を得ているほか、所属公募団体の国画会（国展）において、氏の作品群は会の存在価値を保証するものであるといえる。絵画芸術における高度な見識と深い洞察から、会の重鎮として信頼を集め関係諸氏からの人望も厚く、国展の運営にあたるほか後進の育成にも情熱を注いでこられた。

作家として実績を重ねる一方で、氏は教育者、研究者として高等美術教育に長年携わってこられた。創形美術学校長、福井大学教授として指導にあたるほか、「印象派の画家たち 全15巻」をはじめとする絵画の理論、技法に関連する著書も上梓している。特に金沢美術工芸大学においては、昭和44年に油画専攻（当時の絵画専攻油画）に非常勤講師として来講以来、大学院専任教授、客員教授として40年間にわたり本学で指導にあたり、本学の西洋画教育に多大な貢献をされた。氏の薫陶を受けた学生の中からは、全国レベルの優秀な作家、研究者および教育者が多く輩出されている。

柏健氏の作品には、西洋美術についての豊かな知識を背景としながら、東京芸大時代の伊藤廉教室や留学先のパリ美術学校で学んだ経緯から近・現代のフランス絵画への傾倒もしくは影響が伺われる。氏はこの50年間に渉る制作の変遷の中で作品のテーマ性、時代性、画面形に対する構成、線と色彩、マチエール、技法と材料といった絵画制作に関する諸問題について、各制作年代において所謂日本的な西洋画の概念を覆す、フランス・アカデミズムの流れを汲んだ極めて知的且つ厳格な絵画空間を創出してき

た。

作品の中で主要なモチーフとなってきた（人物）人体は、それ自体が‘figure’としての画面形における表現の可能性を探究する要素としてあるだけでなく、氏の仕事で描かれてきた現代社会の混沌、迷宮（ラビラント）に代表される主題の中で、哲学的な造形思考を基に様々な形体に変容し、内省する作者自身の分身とも言える存在として描かれている。人体をそのように画面の構成要素として成立させてきた氏の仕事は日本の西洋画壇の中であって希有な存在であるといえるが、これは柏 健氏の絵画理論、フランス哲学についての造詣と確かなデッサン、絵画技術をもってして可能にさせる業績である。金沢美術工芸大学における氏の絵画理論と指導は、それまでの本学の絵画教育の土台に加えて絵画技法、表現の多様性をもたらし、学生たちに新しい絵画表現の概念と絵画芸術の栄光を喚起させてきた。

以上の経緯から、1960年代から2010年代の各年代にわたる当該資料は、本学の西洋絵画教育の歴史と密接な関わりを持つだけでなく、日本の西洋絵画史の観点から柏 健氏以前と以後を検証するための重要な作品群として、本学において欠かせない貴重なコレクションとして所蔵する価値があると考えられる。

### 3. 「柏 健展 1969-2015」、シンポジウム

収蔵作品の公開を目的として、平成30年11月19日（月）～26日（月）、金沢美術工芸大学大学院棟2階展示室において、「柏 健展 1969-2015」を、そして平成30年11月23日（金）14:00～16:00、「柏 健展 1969-2015 シンポジウム 西洋絵画のエスプリ」を展覧会場で開催した。

シンポジウムではシンポジストに柏 健氏（金沢美術工芸大学名誉客員教授）、前田昌彦氏（金沢美術工芸大学名誉教授）を迎え、三浦賢治（本研究責任者）司会で以下の内容で進められた。

- ・ 寄贈作品について
- ・ 西洋絵画のエスプリ

- ・ 西洋絵画を学び、制作することについて
- ・ その他
- ・ 質疑応答

内容の詳細については研究報告として既に提出した記録冊子「平成30年度 金沢美術工芸大学教員特別研究「平成29年度芸術資料の分析・調査およびその教育効果について」記録 柏 健展 1969-2015-金沢美術工芸大学平成29年度収蔵作品から-」に記してあるので割愛し、本稿ではその要点について記す。

#### ・ 寄贈作品について

寄贈作品6点について年代順にスライド上映を行い、そのテーマや時代背景、表現様式について柏氏本人による解説を行い、続いて前田氏が自身と柏氏の作品との出会いを通して感じたエピソードを交えて柏氏の制作について語った。

#### ・ 西洋絵画のエスプリ

「エスプリ」というテーマの大きさについて言及した上で、柏氏の西洋絵画の捉え方について、自身のフランス留学時代の経験から感じた見解を説明された。その話をうけて前田氏は西洋絵画の括りについて自身の考えを示した。また、日本人が西洋美術由来の油絵を描く意味について、材料技法の面からどのように捉えているかという質問について、柏氏自身の具体的な経験に基づく説明があった。

#### ・ 西洋絵画を学び、制作することについて

シンポジウムに参加している学生、高校生にむけて、いかにして制作を続けていくか、そのための環境を整えることがいかに大切かを、率直な言葉で語りかけた。次に制作について、アングルやドガを例にとり、デッサンについての理解を深め修練を突き詰めていくことの重要性を説いた。

#### ・ 質疑応答

学生からいくつか質問があり、柏氏の学生時代の記憶を例に出しながら、若い世代への期待を込めた助言を与えた。

#### 4. 記録冊子制作

本研究のまとめとして、収蔵作品図版とシンポジウムの音声反訳を加えた「平成30年度 金沢美術工芸大学教員特別研究「平成29年度芸術資料の分析・調査およびその教育効果について」記録 柏 健 展 1969-2015 - 金沢美術工芸大学平成29年度収蔵作品から -」を制作した。この冊子によって、収蔵作品の全容とシンポジウムの模様、柏 健氏の年譜を知ることができる。

編集：三浦賢治 大森 啓 高橋明彦  
 音声反訳：岩崎 純  
 資料提供：柏 哲郎

#### おわりに

本学の西洋画教育に大きな影響を与えた柏 健氏の作品群を前にした学生たちの反応をみるだけで

も、その教育効果は明らかであった。シンポジウムの機会を持つことで柏 健氏本人の言葉を得ることが出来、本学が所蔵する意義は深まったと考えられる。

#### 附記

本論文は、平成30年度教員特別研究「平成29年度芸術資料の分析・調査およびその教育効果について」の成果報告である。

(みうら・けんじ	油画専攻／油画)
(おおもり・あきら	油画専攻／油画・アクリル画)
(たかはし・あきひこ	一般教育等／日本文学)
(いわさき・じゅん	油画専攻／油画・アクリル画)
	(2019年11月7日 受理)

#### 柏 健 展 1969-2015 会場風景



#### シンポジウム



## 作品リスト

	画 像	題 名	制作年（西暦）	材質・大きさ（cm）
1		沈黙と冥想のための時間	1969	カンバス・油彩 181.8×227.2
2		$\alpha$ 事件と同調する画面	1970	カンバス・油彩 200.0×200.0
3		透過する風景	1984	カンバス・油彩 130.3×162.2
4		都会	1985-1990	カンバス・油彩 194.0×259.0
5		零地点からの再生のため の出発	2006	カンバス・油彩 194.0×259.0
6		現出に向かって	2015	カンバス・油彩 194.0×324.0